

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)キャニオンスパイス第2工場	階数	地上3階、地階0階
建設地	大阪府泉南市りんくう南浜	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火区域	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年7月 予定	評価の実施日	2021年5月31日
敷地面積	2,366㎡	作成者	和田 典久
建築面積	1,217㎡	確認日	2021年5月31日
延床面積	2,440㎡	確認者	和田 典久



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 92%
③上記+②以外の 92%
④上記+ 92%

92 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 2.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 シンプルな平面計画及び外観とすることで周辺環境への配慮を図りつつ、LED照明等の省エネ性能向上を図る設備機器の採用により、LCCO ₂ の排出率を抑える計画とした。		その他 卓越風向きに対する建築物の見付面積比を小さくするよう努め、温熱環境悪化の改善を図る計画していた。
Q1 室内環境 室内環境の快適性を考慮した空調設備計画と照明設備計画とした。	Q2 サービス性能 壁長さ比率を小さく抑え、空間の自由度を高めた計画とした。	Q3 室外環境(敷地内) 建物高さ、位置等周辺のまちなみ景観への配慮をした計画とした。
LR1 エネルギー 効率的な設備機器(LED照明等)の選定により省エネを図る計画とした。	LR2 資源・マテリアル 躯体と仕上材が容易に分別できる等、部再利用可能性向上への取組を考慮した計画とした。	LR3 敷地外環境 建物の省エネ性能を高めて、ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑えた計画とした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R3-0021

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	(仮称)キャニオンスパイス第2工場 新築工事						
	建設地	大阪府泉南市りんくう南浜						
	用途/区分	工場 事務所						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B-	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						2	
③	建物の断熱性						評価対象外	
④	エネルギー削減						3	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	3.3	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	1.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価		-
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	2.6	3
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

【その他】		
	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		